

## 11月12日（金）

おはようございます。

先日の高校二年生と、中学二年生の法隆寺・薬師寺修養行事は、非常に立派な態度でよかったと思っています。

法隆寺の古谷管長猊下の訓話の中に、聖徳太子がお亡くなりになる前に、「諸悪莫作、衆善奉行」というお話をお弟子さんになされたということがありました。とてもいい話だと思いましたので、そのことについて私からもお話してみたいと思います。

「諸悪莫作」とは、「悪いことをするな」で、「衆善奉行」とは、「良いことをしなさい」という意味です。この話の出典は、道元の『正法眼蔵』の中にもありますが、唐の時代に官僚であった白樂天が左遷をされ、杭州の知事になった。杭州へ行ったら、道林禪師というお坊さんが木の上で瞑想をしていた。その道林禪師に対して、冷やかし半分で白樂天が、「あなた、そんなところで瞑想していたら危ないですよ」とちょっかいをかけた。すると、禪師がすかさず「危ないのはお前のほうだ」と一蹴した。どういうことかという、<sup>まき</sup>「お前は薪のように煩惱を燃え上がらしているじゃないか」ということで白樂天が一本取られたようなかたちになった。その際に、白樂天が禪師に「あなたは有名なお坊さんだと聞いていますが、仏教の真理を一言で言ったら何になりますか」と尋ねた。

その時、道林禪師は「諸悪莫作、衆善奉行、<sup>じじょうごい</sup>自淨其意、<sup>ぜしよぶつきょう</sup>是諸仏教」訳すと、「悪いことをするな、良いことを行え、己のこころを浄化せよ、これが諸々の仏様の教えるところである」と答えた。しかしそれを受けて白樂天が、「そんなことは三歳の子どもでも知っているじゃないか」と応じた。すると禪師は、「三歳の童子これを知ると雖も、八十の老翁これを行うことは叶わず」と応酬した。つまり、三歳の子どもでも知っているようなことが、八十になっても実行できないものだというふうに応えた。それで、白樂天は深く礼拝をして<sup>きびす</sup>踵を返したというお話です。

ところで、聖徳太子は、<sup>せんげ</sup>遷化される直前にこの「諸悪莫作、衆善奉行」とおっしゃった。これには深い意味があると私は思っています。「悪いことをしなさんな、よいことをしなさい」というのは、「<sup>しちぶつつかい</sup>七仏通戒の偈」といって、一人の仏ではなくて、今まで出て来られた七人の仏様がみな同じことを言っておられるものであるけれども、それを敢えて述べられたのはなぜか。私は、仏教には因果応報という大原則があるからだと考えるのです。善いことをすれば樂が、悪いことをすれば巡り巡って苦しみが訪れますよというのが仏教の因果応報の法則です。しかし「悪いことをせず、善いこと行え」という教えは、三歳の子どもでも知っているが、八十歳になってもなかなかできない

ものだ。こういう深い深い意味があつて聖徳太子は遷化される直前に「諸悪莫作、衆善奉行」とおっしゃったのではないかと私は考えています。

最近のテレビを見ていると、ある程度倫理観がきちりして、その倫理規定を守らない、いい加減な放送はできません。放送違反があつたら、倫理委員会にかけられて、「問題がありますよ」と注意されるという話。しかし、近頃はユーチューブを見ている人が多くなりました。これは価値観の多様性という名のもとに、あるいは、言論の自由という名のもとに、うそか本当かわからない、倫理規定はあるものの、それがあのかないのかかわからないほどに乱れた情報や映像が流し放題になっています。

今年には聖徳太子がご遷化されて、千四百年目の記念の年です。その太子が最期に「諸悪莫作、衆善奉行」とおっしゃった。「悪いことをするな。良いことを行え。因果応報や」と。やはりいい加減なことをしていたら、苦しみが訪れるし、善いことを行えば、巡りめぐって自分が楽になると。価値観が多様で、やや混乱めいたこの時代に、そういう意味での仏教の教えというものは、人として生きていくときの羅針盤になりうるし、人の生きるべき指針がそこにあると私は感じます。できないことを言うのではありません。因果応報なのだから、悪いことばかりしていると、巡り巡って苦しむことになりますよ。これが千古の真理であるが、われわれは一度立ち止まってそのことをよく考えてみる必要があるのではないかと私は感じるのです。

中国のように外部から強制的に情報統制を受けるのではなく、われわれは自律的に、できるだけ悪いことはせず、できるだけ善いことを行うという心の戒め(倫理)を、千四百年前に生きた聖徳太子からのメッセージだと思ってしっかり受け取ってもらいたいと思い、お話ししました。

今朝の話はこれで終わります。